



CAGLIERO 11

カリエロ



159 2022年 3月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

修練院に入った最初の日から、私の目は学習室の地球儀にひきつけられました。私たちのどの共同体にもある地球儀です。その横を通るたびに、私の中に望みが湧きあがりました。いろいろな所へ行き、サレジオのカリスマがその地でどのように幕屋を張ったかを見たいという望みです。私たちの美しい地球のさまざまな場所、地球儀で灰色に塗られ、私たちがまだそこにいないことを表す地点に、何度目を向けたことでしょう。そこ、まさにそれらの場所でも、若者、特に最も貧しい若者たちが私たちを呼んでいるのです。

宣教は、キリスト者である私たちのアイデンティティーの一部分です。そして、共に、すべての善意の人のためにすべてを計らってくださる神のしるしとなれるのは、信じる者の共同体としてなのです。ドン・ボスコの喜び、熱意、率先する取り組みは、新たにされる宣教への献身に向けて、私たちが真に動かすのです。

Francesco De Luvo

■ イタリア宣教促進事務局
コーディネーター
フランчесコ・デ・ルーヴォ神父,
SDB

あるサレジオ会員の目を通して見る 生命倫理の挑戦



教皇フランシスコは、話の終わりに必ず言います。「私のために祈るのを忘れないでください！」教皇が自分のために祈ってほしいと言うとき、それは単なる決まり文句ではありません。教皇は、影響を、何よりも信徒の**信仰と倫理規範**に影響を与えるさまざまな決定の重みを負っているのを感じているのです。信徒はかつて聞いたことのないような挑戦、生命倫理に関するものを含む挑戦に立ち向かうため、教皇の言葉に確かな道を見いだします。

30年近く前、ヨハネ・パウロ二世は教皇庁立生命アカデミーを設立し、いのちの文化を発展させるために、人間のいのちを促進、**擁護する**にはどうしたらよいかを**研究する**、その繊細な仕事をゆだねました。このアカデミーの会員は世界中から集められた科学者で、それぞれの専門性をもってすべての人の尊厳に仕えています。一人ひとり、いのちのどの段階にあっても、排除されることも、'処分'されることもあってはならない、例外なくすべての人の尊厳に。

今動いている最新のプロジェクトは何でしょうか？

人のいのちの始まりと終わりに関わる'古典的な'問題(例えば、ヒトゲノム編集、緩和ケア)に加え、技術の進歩によってもたらされた'新たな'問題もあります：歴史上類を見ない飛躍的な進歩をとげた人口知能に人間らしさを与えることを目指す**アルゴリズム・エシックス**(エシックス=倫理)；人間と機械を相対立するものとしてではなく、生活の質の向上のため、病気、無知、貧困と闘うために、いかに共に働けるかを探る**ロボ・エシックス**などです。また、**グローバル・バイオエシックス**(バイオエシックス=生命倫理)における主要な挑戦は、文化的、宗教的な貢献を差し出すことによって、さまざまな重要な課題を共に考えることです。

これらはいくつかの最新の生命倫理の挑戦であり、教会は喜びと平和をもってこれらに立ち向かえるよう、私たちを助けてくれます。教会は、私たちの良心や理性に取って代わろうとするのではなく、母、教え手として、子どもたちの善益だけを望みます。子どもたちが誤りのうちに生きることがないようにと。私たちサレジオ会の使命は次のことでもあるかもしれません：教皇のために祈り、その教導職の教えを学び、いのちの文化のために若者を養成することです。

■ 倫理神学教員、トリノ・クロチェッタ共同体副院長
ペーター・シュテルマク神父, SDB

振り返りと 分かち合いのために

- 人間のいのちの促進と擁護のために、私は何ができるだろうか？
- 自分が暮らす環境で、いのちの文化にどのように寄与できるだろうか？



Cagliero 11 (カリエロ11)の全バックナンバー：<http://salesians.jp/library/cariero>

良く連携調整された サレジオの開発支援事業



フォニー、あなたはDBNドン・ボスコ・ネットワークのコーディネーターとして働いていますが、ほかにも興味深いネットワークが数多くある現代世界で、このネットワークは何のために必要ですか？

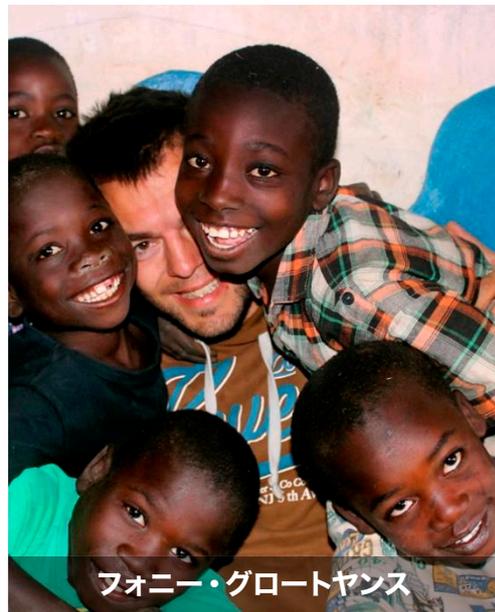
ドン・ボスコ・ネットワークは、開発協力の分野で働く9つのサレジオのNGOや宣教事務局を結ぶ国際的なネットワークです。ネットワークのメンバーや関連するサレジオの機関の間で、情報や良い実践例を共有することは有益だと私たちは信じています。私たちは、計画・開発事務局がキャパシティを広げるのを支援し、人権擁護運動、開発教育の分野で活動しています。連携した働きにより、開発支援の事業ははるかに**効果的**なものになり、サレジオの事業の**認知度が高まり**、共通の課題や問題に、連携して取り組めるようになります。

サレジオの宣教事業へのDBNの最も重要な貢献は何だと思いますか？

サレジオの宣教部門への私たちの最大の貢献は、世界的な緊急事態における、**具体的な、連携調整された支援**です。例えば、パンデミックの1年目、総長から世界的な連帯の呼びかけがありました。DBNはプラットフォームや人材、コミュニケーション・ツールを提供することで、その「緊急対応」の連携調整を助けてきました。あらゆる働きをよりわかりやすくし、すべての情報をできるだけ中央に集約するためです。

今月、私たちはベルギーの若者のために祈ります。私たちサレジオ会、そして全サレジオ運動は、人生において真実な責任ある生き方ができるように、この若者たちに何を差し出せるでしょうか？

今の時代、多くの若者が自分自身を肯定的に感じていません、自信がないため傷つきやすく、受け入れられることを必要としています……（内面の）安らぎと慰みを見いだせる場を若者たちは必要としています。居場所、温かく迎え、真実なありのままの自分を喜び、受け入れてくれると感じられる人が、**共に歩んでくれる家**です。それこそが、私たちのセンターや学校、全寮制の学校でサレジオの教育者が差し出すことのできるものです。それと共に、若者たちが**もういちど本当に「若者」になる機会**を与えられればと思います。多くの学校、スポーツ施設、ユースセンター、若者たちの出会う場は、これまで何か月ものあいだ、パンデミックの規制のため閉鎖されてきました。若者たちは仲間と出会い、交流するため、教育者や手本となる先輩と過ごすため、家にいることが難しいとき、少しのあいだ家を離れるために、こういった場を必要としているのです。



フォニー・グロートヤンス

39歳。妻、3歳の息子とベルギーに在住。サレジオのキャリアは2000年、地元、FMAのオラトリオから始まった。2011年、Jeugdendienst Don Bosco（ドン・ボスコ青年奉仕団）で**国際ボランティア**の責任者として働き始める。2015年、ヨーロッパの、青少年のために働くサレジオ諸団体のネットワーク、ドン・ボスコ・ユースネットの会長に選出される。2020年から**DBNのコーディネーター**を務めている。



DBN - ドン・ボスコ・ネットワーク

フォニー
ラム
サレジオのNGO、宣教事務局の世界的なネットワーク

- ベルギー、ドイツ、インド、アイルランド、イタリア、スペイン、スイス、スロバキア、米国の9つの団体・事務局が所属。
- 主な目的は、DBNメンバーやそのほかのサレジオ会の機関が世界各地で行っている（開発支援）事業をカブけること。
- DBNはローマのサレジオ会宣教部門と緊密に連携し活動しています。



3月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

生命倫理におけるチャレンジ

ベルギーの若者が、真にいのちを支え守る生き方をしますように。

生命倫理における新たな挑戦に立ち向かうキリスト者のために祈りましょう。

祈りと行動をもって、すべての人のいのちの尊厳を擁護し続けますように。 | 教皇フランシスコの祈りの意向 |

ヨーロッパ
のために

